大好きだから本音で語ります わたしのおかやま interview

place
美作市

合同会社オフィスキャンプ
古民家宿「難波邸」
農家民宿「UJITEI」
「トム・ソーヤー冒険村」運営
山本 侑香さん［左］

アトリエナカウテ
一級建築士事務所 代表
丸山 耕佑さん［右］

profile
山本 侑香さん
岡山県津山市出身。大学卒業後、ベルギー・アントワープを経て2012年にUターン移住。家族構成は夫でジュエリーデザイナーの敦史さんと子ども1人（移住時は夫妻のみ）。

丸山 耕佑さん
福岡県出身。大学卒業後、東京の設計事務所で勤務。1級建築士取得後、2016年に美作市地域おこし協力隊として単身Iターン移住。2019年に関西から移住してきた由里子さんと結婚。

地域×起業移住

昔から旅人が行き交う宿場町だから生まれた出会いと人情、支え合い。

伝統とモダン、人が交わる宿場町

山本 デザインを生業とする私たち夫婦は、因幡街道の宿場町として栄えた「大原宿」のある美作市に移住。津山市で農家民宿「UJITEI」を運営していたノウハウを生かし、街道に面した古民家宿「難波邸」（コワーキングスペース・ジュエリーショップ併設）も運営するようになりました。美しい町並みを眺めていると、ここで何かを始めたい人が増えるといいなと思うようになったんです。

丸山 東日本大震災を機に田舎暮らしを考え始め、2013年に美作市の「山村ワーキングホリデー」に参加。そこで、先輩移住者の山本夫妻に出会い、田舎を拠点にクリエイティブな活動をしている二人の姿に感銘を受けたんです。

山本 私と夫が東京で開いた展示会にも来てくれたんですよね。

丸山 同じ年というのもあって親しくなり、我が家に泊まっていただいたことも。私も美作に何度も通いました。ここで何ができるか3年かけて模索し、2016年、美作市地域おこし協力隊として着任。山本さんがいるから全く不安はありませんでした。在任中に、集落の住民の皆さんと一緒に古い蔵を活用したスモークサウナ「パブリックハウスアンドサウナ久米屋」を開業。今も地域一丸となって運営し、好評を得ています。

移住者が移住者を呼び込む好循環

丸山 出店サポートを行うようになり、少しずつ通りに店が増えてきましたね。建築士として空き家のアテンドや大家さんとの交渉にも関わり、改築の相談にも応じています。

山本 同じ通りで仲間と一緒に商売できるとすごく楽しいし、未来への可能性を感じています。コミュニティが育ってきていると感じますね。通りを歩けばみんな顔見知りなので、「こんにちは」と声を掛け合います。互いの店を行ったり来たり、昔ながらのコミュニティのよう。「子育て面でも安心できるしいいな」と思いますね。

丸山 移住者の店が増えた今も、この町に関心がある人の相談に応じています。人とのつながりを大切にする人が徐々に増えていけばいいなと思っています。最近、美作市の伝統産業である「みつまた栽培」の後継者候補が現れたので、その方の住居相談に応じたり、これからの展開や生活を一緒に模索したりしています。

さらに人を呼び込む街道へ

山本 今や全ての宿を合わせると年間1万人以上のお客様を迎える宿に育ち、長期間滞在するアーティストや海外の方も増えています。さらに、ここ大原宿と因幡街道でつながる兵庫県の平福宿、鳥取県の智頭宿の事業者と協力し、お客様に三宿を回遊していただけるような情報発信や仕組みづくりにも取り組んでいます。

丸山 大原宿に関心があるならば、まず遊びに来てみてください。人とのつながりをつくってみることから始めたらいいと思いますよ。

地域の材料を生かして新たなプロダクトを開発し、宿で販売するなど、デザインと地域を組み合わせた活動を展開する山本さん。地域の魅力をデザインの力で国内外に発信中。

先に移住したデザイナーの山本さんと1級建築士の丸山さんと一緒に、古民家を活用した出店や新しい事業・サービス、暮らしをつくる人が増えています。

丸山さんは移住後、山本さんとのつながりで大原宿に出店を希望していた、兵庫県出身の由里子さんと出会い、1級建築士として店舗設計や古民家改修を担当。「あんこや べ」の開業後、結婚。この頃から、山本さんと協力して新たな出店者や移住者のサポートを行うようになりました。店舗の一角には丸山さんの仕事スペースを設けています。

place
和気町

WEBデザイナー・翻訳家
三村 絵美さん

profile
神奈川県出身。家族構成は、米国・ハリウッドの映画製作に携わるフリーランスのVFXデザイナーである夫のFabio Piresさん（ポルトガル出身）と子ども3人（移住時は2人）。安全で健康的な子育て環境を求めて2018年、NYから日本へ。半年かけて8自治体を下見し、2019年春、和気町にIターン移住。現在は、夫と立ち上げた越境ECサイトを通じ海外顧客に備前焼を販売している。

わたしが三村さんのキーパーソン
和気町移住相談員
飯豊（いいとよ） 信（まこと）さん

のびのび子育て移住

元気いっぱい駆け回れるような場所で子どもたちを育てたい！

この町なら安心して子育てできる！

ニューヨークは医療費も教育費も高く、子ども一人では短時間でも外を歩けない状況。3人目を授かりたいと思ったタイミングで「安全な場所で子育てしよう」と日本への移住を決意しました。「子どもが思いっ切り走り回れる場所」に憧れ、瀬戸内の8自治体に数日ずつ滞在し、自分たちに合う子育て環境を比較。和気町を選んだ決め手は保育園と町の対応でした。特に、保育園の園長先生や保育士の方と直接会って話が聞けたこと、「すぐ町立保育園に入れる」という安心感は大きかったです。

移住者に対してウエルカムな町

散歩中に高齢の方が話し掛けてくださり野菜をいただくことも。日本語の話せない夫とも英単語や身振り手振りでコミュニケーションを取ろうとしてくださるなど、町全体がウエルカムな雰囲気に満ちています。

行政のほど良いフォローで地域に溶け込める

町から交流会などのイベント、「こういう方がいるから友達になってみては」と案内してもらった情報を選んで参加するうちに自然と友達が増えました。押し付けではない、適度な距離感が心地良かったです。

子育て最優先の親子が集まる町

和気に移住してきた多くの子育て世帯が子どもを最優先に考えているので、育児を母親一人に任せず二人で頑張っている方が多く、互いの仕事や趣味など自分らしい生き方も尊重し合っている印象。父親同士が子どもを連れて集まって外遊びする姿も普通に見られる環境なので、女性も育児と仕事を両立しやすいと思います。

「こういう風景の中で子育てしたい」と思い描いていた通りの町。子どもが自転車で行き来できる距離に同年代の子どももたくさん住んでいる、最高に恵まれた環境です。

place
高梁市

高梁市GIGAスクールサポーター
高梁市学校連携コーディネーター
高梁100challenge代表
横山 弘毅（ひろき）さん

profile
神奈川県出身。大学卒業後、2007年、オンライン教育サービスを手掛ける東京のベンチャー企業に参画。同社役員を退任し、2020年に高梁市へIターン移住。教育DXを軸に、人口減少や地方課題を解決するモデルを創出しようと挑戦中。家族構成は、妻（高梁市地域おこし協力隊）と子ども1人（移住時は夫婦のみ）。

地域×チャレンジ移住

教育DXを軸に地方と子どもたちの未来を拓きたい！

オンライン教育は本格化したが…

移住前は東京を拠点に、オンラインによる都市と地方の教育格差解消に取り組んでいました。コロナ禍を契機に各地でオンライン教育が本格化、前職の会社の事業も急成長を遂げましたが、地方の衰退が加速することに危機感を抱いていました。そんな時、知人の紹介で高梁市のG－CASKクール構想に協力する機会を得て、やるからにはどっぷり地域に入り込みたいと考えるように。市内を散策するうち、古き良き町並みと古民家、そして何よりも子どもたちの生き生きとした表情に魅せられ、夫婦で移住を決心したのです。

まずは現場で汗をかく

アドバイザー的な関わり方も選択肢としてはありましたが、高梁市の学校や地域の状況を見渡すと、プレイヤーの少なさが課題に思えました。まずは自らプレイヤーとして動き、現場で汗をかき、先生や児童生徒に寄り添いながら教育DX推進を始めました。

全国平均を上回る学校ICT活用へ

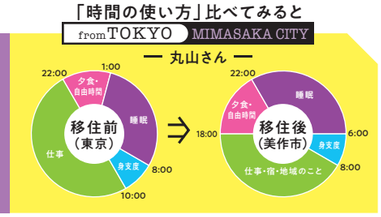
ウェブ会議システムによる海外との交流授業をはじめ、教育版マインクラフトの活用など、実践例が増えると現場も自主的に動き始め、高梁市の学校ICT活用は全国平均を上回り、岡山県内トップクラスに躍進しました。

学校の枠を超えた支援を展開

さらに、学校の枠を超えて、地域と連携した活動を支援できるよう「高梁100challenge」という団体を立ち上げました。この自治体の規模だからできることもたくさんあるので、教育現場と協力しながら質の高い学びを創り出し、高梁が盛り上がるように挑戦し続けていきたいと思います。

クラウドファンディングで資金を集め、「駄菓子店」として地域に愛されてきた築約100年の空き店舗をセルフリノベーション。人々が集う場として活用しています。

「時間の使い方」比べてみると
from TOKYO　MIMASAKA CITY



ライト移住（二地域居住）

瀬戸内海の美しい眺めに癒やされつつ、二地域居住や移住を楽しむ人々に刺激をもらえる、私のパワースポット。

place
倉敷市

編集者・ライター／本屋「aru」店主
あかし ゆかさん

profile
京都府出身。大学卒業後、東京のIT企業のブランディング部門で5年間、取材・記事制作に携わる。会社員を続けながら業務では扱えない生活文化などの分野で記事制作・編集の副業を展開。2020年3月にフリーの編集者・ライターとなり、2021年5月、倉敷市児島に本屋「aru」を開業。東京と倉敷で二地域居住実践中。

きっかけはワーケーション

会社を辞めてフリーの編集者・ライターになった2020年、環境の変化やコロナ禍などで精神的に落ち込んでいた時に、友達の山脇耀平さんが、運営する海の見える宿泊施設「DENIM HOSTEL float（以下float）」に「来てみたら」と声を掛けてくれたんです。それで、7月に2週間ほど滞在し、ゆったり休みながら仕事をしてみたら不思議と肌になじんだんです。

ユニークな人が全国から集う場所

しかも、山脇さんと島田さん兄弟の縁で、floatには全国各地からユニークな活動をしている人が集まります。二人を通じて知り合った岡山県内の友人たちも面白い。編集者やライターにとって、多様な人と出会える環境は魅力的で、何かが生まれそうだと感じ、「こっちに拠点を持ってもいいかな」と思い始めました。

海の見える本屋をつくろう

これまで、いろんな土地で海を見てきましたが、瀬戸内海が一番好きです。穏やかで淡い色合い、パステルカラーに包まれる時間、夕暮れにピンク色に染まる空もいいなと思います。休日、瀬戸内海の島にふらっと行けるのもいいし、周辺にカッコイイ店も多い。

さらに、山脇さんから、この物件が空いていると聞き、もともと本が好きな私は「ここで本屋をやりたい」とひらめいたのです。「店を開くなら毎月来た方がいいよね」という自然な流れで二地域居住生活が始まりました。

二地域居住を長く続けたい

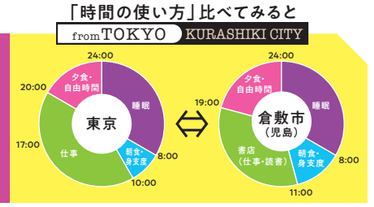
現在は結婚し、パートナーは東京在住のまま、1か月のうち20日が東京、10日が倉敷のベースで往来しています。倉敷にはアパートを借り、車も購入しました。

東京と倉敷を往来するうち、どちらも新鮮に感じるようになりました。一つの場所に留まっていると飽きたり、「これでいいのかな」と不安になったりしますが、定期的に環境が変わることで、私にとって「どちらも必要」なのだと気付きました。今後、もし子どもが生まれたり環境が変わっても、この生活を続けられる方法を模索していきたいです。

山脇さんと島田さんの紹介で、数年間、使われていなかった民家を借りて開業。傷んでいた土台の修繕、床の張り替えなどのリフォームは、2人に紹介してもらった職人に依頼。

東京にいるときは1時間刻みで予定が入るので慌ただしく、生き急いでいる感じがあります。それはそれで良さもありますが、倉敷では流れる時間がゆっくりだと感じます。

「時間の使い方」比べてみると
from TOKYO / KURASHIKI CITY



ベストセラーやビジネス書などは扱っていません。読むと穏やかな気持ちになれる本、自分と対話できるような本、瀬戸内海の雰囲気に合う優しい雰囲気の本を置いています。

わたしがあかしさんのキーパーソン

知る人ぞ知る「デニム兄弟」の兄の方です。
関東と岡山の二地域居住を経て、2022年に移住しました。

（株）ITONAMI共同代表
山脇 耀平さん［左］

関東の大学在学中に、弟と二人でデニムブランド「EVERY DENIM（現：ITONAMI）」を岡山で立ち上げました。2018年4月から1年3か月かけて、弟と一緒にキャンピングカーで全国47都道府県を巡ってデニムを販売。各地で温かく迎えてもらえた経験から、次は自分たちが迎える側になろうと海の見える宿泊施設「DENIM HOSTEL float」の開業に至りました。SNSなどを通して、価値観の合う人たちとつながりを築けるので、住む場所にこだわらず、関東と地方に拠点を持つ人や、各地を転々とするノマドワーカーなど自分に合う移住スタイルを選ぶ人が増えています。いろいろなつながりがあるので、ぜひ相談してみてください。

リモートワーク移住

東京の企業で働きながらせとうちの海と太陽、家族の笑顔に包まれて幸せ！

place
瀬戸内市

ハードウェア開発責任者
日野原（にしま） 錦さん

profile
島根県出身。岡山県内の大学卒業後、総合家電メーカーで開発に従事。都内で次世代電動車イスを開発する企業のエンジニアを経て、2020年、東京を拠点にシェアリングIoT農園を展開するスタートアップ企業に参画。「人と自然に優しいテクノロジー」の開発を目指して活動中。家族構成は妻の恵さんと子ども1人（移住時3歳）、愛犬1匹。2022年に瀬戸内市へU(J)ターン移住。

子どもと過ごす今を大切にしたい！

リモートワークを続けるうちに「関東にいる必要はない」と思い始めたんです。家は日当たりが悪く、窓の外は壁。隣の住人も分からず、外出先でも子どもから目が離せない緊張状態が続く中、自然が豊かで、子どもと祖父母が気軽に会える環境で子育てをしたいと思うようになり、妻の故郷でもあり、私が大学時代を過ごした岡山県に帰る決意をしました。岡山県や自治体の移住セミナーにはリモートで参加。帰省のついでに現地を見て移住相談をしたり、物件を探したりしました。

家賃は半分、広さは倍に！

移住直後は、Wi-Fi環境を求めて海辺のコワーキングスペースを利用していました。現在は4LDKの自宅が仕事場です。愛犬が走り回れる広さの庭で子どもを遊ばせながら見守っています。

子育てが一段落した後のために

「子どもの手が離れた時に自分のコミュニティをつくっておきたい」という妻の願いをかなえるため、住居とは別に古民家を借りて改装し、美容室をオープンしました。

新しい趣味を始めるゆとりも生まれた！

車中心の生活だとなかなか歩かないので、運動不足にならないようランニングを始めたら楽しくなり、マラソン大会やトレイルランニング大会に出場するようになりました。地域のバスケットボールチームにも加入。週末には、妻の実家近くにつくった農園に通い、果物や野菜を育てています。趣味がどんどん増えて毎日が充実しています。

家族と過ごす時間が増え、子どもの日々の成長を見守る幸せを実感しています。食事も家族みんなで食べるようになり、生活にも心にもゆとりが生まれました。

ゆったり里山ぐらし移住

水汲み、薪割り、DIY…、毎日がキャンプみたいで不便だけど楽しい！

place
久米南町

3D-CAD技術者
（鉄骨施工図・原寸）
池田 裕之（のぶゆき）さん

profile
千葉県出身。建築系の鉄骨施工図を作図するプロとして独立。家族構成は、妻の恵さん（埼玉県出身）と子ども2人（移住当時は小学6年生と1年生）。コロナ禍に自宅で仕事をするうち、「この仕事はどこでもできる」と確信し、家族みんなの憧れだった「山ぐらし」を決心。2020年、久米南町の南部、ブドウ栽培が盛んな標高300mの山手地区へIターン移住。

いつかツリーハウスをつくりたい！

家族みんなアウトドア好き。子どもたちとはツリーハウスをつくる約束をしていたものの、「山ぐらしをしたい」という私の夢に子どもたちを巻き込むのは不安でしたが、家族は大喜びしてくれました。食べ物がおいしそうな岡山県に興味を持ち、お試し住宅に2回滞在。都内の「とっとり・おかやま新橋館（移住・しごと相談コーナー）」に相談して、地域ぐるみで子育てに取り組む町を探していたところ、たまたま山の上の一軒家と、その地区に移住者を迎え入れている団体「コンシーデレ山手」につながったのです。

決め手となったオンライン交流会

移住支援団体「コンシーデレ山手」の皆さんとオンラインで交流し、同学年の子どものいるご家族から学校の詳しい様子を聞けたことが移住の決め手になりました。引っ越しの際にも何十人もの皆さんが手伝ってくれました。

最大の悩み「古民家改修」は最高の楽しみ

築70年以上の古民家は雨漏りもするし、床の傷みも激しかったのですが、一部プロの力を借りつつ、床や壁の改修はセルフリノベーションを楽しんでいます。やりたいことがいろいろあり、体力のある若いうちに移住して良かったと思います。

家族の夢が地域の夢に！ツリーハウス実現へ

現在、私たちも「コンシーデレ山手」に加入し受入側に。移住支援や祭りの手伝いなど地域活動に参加しながら、釣りやバーベキューなど山ぐらしを満喫しています。2023年には妻が任意団体を立ち上げ、地域の大学生や中高生、その親世代と一緒に子どもたちの居場所となるツリーハウスづくりにも取り組んでいます。

移住による最大の変化は、キャンプに行かなくなったこと。自然に囲まれ、見晴らし最高の自宅の庭でBBQしたり、薪で沸かした風呂に入ったり、不便さを楽しんでいます。